midorinodam.jp MPの発力 MPの発力



9月号の1枚:トチノキのアルミ製ナンバープレート

[巻頭言] 森の中の風景

子供達が自然の息吹きと触れ 合いを感じる森へ

猛烈な暑さが続いていますが、当会の活動拠点である「相模湖・嵐山の森」に入る前、相模湖大橋を渡って、いよいよ森の中に入って行くとヒヤリとした冷気に包まれます。森林の温度・調整機能を実感する瞬間です。

8月の定例活動日も森林活動を励む 沢山の森仲間が集まりました。その中 に毎月、幼児連れの若いお母さんも参 加してくれています。未だ、よちよち歩 きの子供ですが喜々として森の集合広 場を歩き回っており、その可愛いしぐ さに大人たちが目を細めています。 お昼休みも終わって皆んなが夫々の持ち場に散って静かになった集合広場の木陰で、「幼児・ことねチャン」がシートの上でお昼寝をしています。森の中で子供がスヤスヤと眠る姿は実に健康的で静寂・平和な世界です。今、世の中は様々な騒動が報道されていますが、全く対照的な風景に心落ちついて行く自分を感じます。

3年程前から中学生が参加しています。20年生位に育った杉林の下草刈り、間伐、枝打ち、搬出に取り組んで完了の段階にまで来ていますが、下の作業道から整備した杉林を見上げると、余りに見事な美林になっているので(指導の先生の力量にもよるもので

すが)これが中学生のした事かと驚嘆してしまいします。彼らは、森林活動だけでなく、都会での森林広報活動にも積極的に出かけて行きます。8月14日~24日、渋谷の青山通りに有る国連大学本部・構内のGEOC(地球パートナーシッププラザ)で森の大切さを訴えました。

このように子供達が自然の息吹きと触れ合いを感じながらスクスクと育つ事が、その子の将来にどれほど良い影響を残すか、また、地球の将来をどれ程、明るく住みやすくするか、真剣に取り組んで行かねばならないでしょう。

石村 黄仁(本会、代表理事)

今月の定例活動



9月1日(第一日曜日):

小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。

持続的森林経営:弁当持参。参加費:400円

9月15日(第三日曜日):

相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。

主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費:400円



責任ある森林管理 のマーク

[定例活動]小原本陣の森

8月4日 (第一日曜日)

8月に入り学校も夏休みを迎えて最初の活動となったのが今回の小原本陣の森での定例活動でした。実家に帰省している人も多く、Forest Nova☆からの参加者は7人でした。今回の活動は僕たちがいつも整備を行っていた径路の整備補修点検がほの方と一緒に孫山のハイキングコースを歩きながら、そのコースの整備の検を行いました。また同日、嵐山の



方は工が業進てまた善路で木班作をめいし。径班

は、まずハイキングコースの出入り 口は雑草が生い茂っていて出入り口 とは言い難い状況にあったので、そ の出入り口がある程度目立つように 雑草を刈ることから作業は始まりま した。しばらく進むと、木に蔦や蔓 がたくさん巻き付いている地点に着 きました。そこで、前回の活動内で 緑のダムの川田さんから教わった蔓 の撤去方法を実践しました。そこか らさらに雑草を刈っていきながら進 み、丁度ハイキングコースの3分の 1にあたる場所に古い祠があり、そ こからすばらしい景色を見ることが できました。定例活動場所である嵐 山も見ることができました。その 後、午後も引き続き整備点検を行っ ていくと、今度は腐ったままの立ち 木がハイキングコースの脇に点在し ている地点にたどり着きました。腐 った木が倒れると危険なので除伐を 行ったのですが、木を伐る道具が不 足していたため作業はとても大変で した。しかし、登山者の安全を守る ためと手鋸一本で腐った木を伐り倒 していきました。作業を終えたそこ には大きな達成感と沢山の切り株が 残りました。その日は孫山山頂までの道を点検整備できました。嵐山で作業をする木工班では大工の長谷川さん、緑のダム松尾さんと斉藤さんとForestNova☆の治田4人で、材置き場の設計についての話しや、長谷川さんの家の作業場で伝統工法について学び、材置き場の作り方について学び、材置き場の作り方について学び、材置き場の作り方について学び、材置き場の作り方について学び、材置き場の作り方についての技術的な話をたくさんしまった。その後モマエ房の掃除をし、今後製材に取り組むための準備をしました。

今回の活動で初めてハイキングコースを整備し、僕たちが整備したなない気持ちよくハイキとのが気持ちなれたらないできるようになれた。今後もコースを整備を行っていきたいと思ったです。また、材置き場ではいきを表しないです。今後もしていて計画・施工させたいと思います。

山田 和彦 (ForestNova)

[定例活動]相模湖嵐山の森

8月18日(第三日曜日)

お盆を過ぎたというのに猛暑が続く。人も草花もしおれ気味だが、サルスベリ(百日紅)だけは鮮やかなピンクの花を勢いよく夏空に向け、多日は学生たちの参加が少なく総勢43名。これでもかなりの人数なのだが、このところずっと70名を超えていたため、何となく少ないように思えてしまう。

朝礼では川田さんから水分補給の注意があった。今年は日本各地で大

勢の熱中症患者が出ている。森の中はいくらか気温は下がるものの、それでも注意を怠ってはならない。石村夫人持参の梅干をほおばり塩分補給をしてから、いざ作業へ。

お花畑班は草むしりと樹木の剪定 (日向なので気をつけよう!)。高

井戸中は望星の森のナンバリングに出かけた模様。川田さんはフォレストノバの治田君、ノバのBの滝澤君らと材の仮置き場予定地の地拵え。さて、特筆すべきは森林整備班である。基地のシンボル・ツリーとなってくり始める。根元を踏み固めて木を

傷めることのないようにとの配慮からではあるが、これがただの保護柵ではなかった。杭にドリルで穴をあけ、そこにトラロープを通して亀甲形に柵を張る。正面には緑のダムの堂々たる看板。よく見れば、その天辺には桧皮葺の小さな屋根まで載っ



ている。凝りに凝った保護柵でサワラもさぞかし嬉しかろうが、大の男数人での一日がかりの仕事になってしまった。

「よくそんなに凝る暇が ありましたねー」と会員 から称賛(皮肉?)の声 も。

お昼は冷汁に差し入れのキムチと水キムチ。こ

んな日には有り難い。しばしくつろいでから午後の作業へ。私はフォン、シシウド、ミズタマソウにゲンノのショウコ…。基地からを増をしていたがら、それらのはあたりしながら、ノバのように収めたりがら頭が下がら頭が下がらいずいと意欲満々。途中、日大を退官され



た櫻井先生が加わってからは ナナフシやバッタ類、果ては カビに侵されたカミキリムシ まで現れて場は大いに盛り上 がった次第である。

病気もなく怪我もなく、ボ チボチと、しかし確実に歩を 進めることができた今日一 日。嵐山の材を使った手作り のまな板を持つ高井戸中学生 の満足げな表情が印象的だった。





内野 郁夫 (本会、理事)

[報告 1] 嵐山の活動に参加して

7月21日

本学がNPO緑のダム北相模と提携を結んだことと、活動の様子についてForest Novaの学生に日頃から話を聞いていたからです。

うかがう前は、20~30名の小さな集まりだと思い込んでいましたが、到着すると100名近くの人が楽しそうに集まっているではありませんか。しかも、小学生から大学生、社会人、リタイアされた方まで、幅広い年齢層の方が集まっても驚きましたとても驚きましたとても環境教育に付き添って歩いたり、ナイフでしゃもじ作りを楽しんだり、日常のストレスを忘れるくらい気持ちの良い時間を過ごすことができまし

た。2年前までは、小学生と環境教育に取り組み刃物や道具の使い方を教えることが仕事だったので、学生から逆に「教わる」ことが心地よかったのかもしれません。とにかく、この日はお客さんだったこともあって、活動全体に大きな親近感が持てました。

これまで、全国各地を訪ねながら、学校とNPO、行政、企業等が連携した環境教育のあり方ついて研究してきました。たくさんの人に出会い、いろいろな取組に学んできましたが、多様な人々が集うこの活動は、間違いなく質の高い環境教育・活動に発展していくことを確信しました。今後、機会があれば、学生ともども再訪したいと思います。

小玉 敏也 (麻布大学 生命・環境科学部)

[報告2] みんなでつくろう森物語 ~森林探険と木工工作の巻

じりじりと照りつける太陽が連 日顔を出し暑い日が続く中、私た ちForestNova☆は去る7月27日 土曜日に元気いっぱいな小学生親 子17名を対象に環境教育を行っ てきました。市の施設である相模 原市環境情報センターに主催をし ていただき、場所は嵐山と青根

「草木館」にて行いました。企画 当日がテスト前ということもあ り、慌ただしく準備を進めて迎え た本番は少し曇り過ごしやすい気 候でした。当日の朝、参加者と共 に貸し切りバスに乗り込みバス内 でレクリエーションクイズを楽し みながら嵐山まで向かいました。





そして嵐山へ到着、低・高学年2 グループに分かれ森林探険を始め中した。森林探険では、ただ森の中を歩くだけではなく森の中を歩くだけではなり、本の東であるする。鳥をはじめ森の音を何を持ちたと聞これの表表表してもいるかを考え発表してもいるが生きないるでもあるでもない。木の気持ちを感じてもいった。をう企画の3かをあることをしたました。また楽しんでもらえたました。高い、本が生きないることをいている。できないないまた。といまれた。この企画中も参加者は熱心でもらえたました。

感じました。森林探険が終わった後、2グループは合流し参加者がそれぞれ森で見つけたものを共有してもらいました。そこではたたの意見が出たのですが、その見つけたもの全部が繋がってある繋がったももの生活にもも見んの繋がりは自分たちの生活にさんの繋がりがあることを伝えました。可じれるとを伝えました。可じれるとを伝えました。でお昼じたの後、嵐山でお昼ご飯を草木館へいました。そこでは参加者にメ親

今回の環境教育を通して、参加 者に森の繋がりや森の素敵なとこ るを知ってもらうと同時に、私た ちもまた新たな森の魅力や繋がり など付かされることもたくさんあ りました。この新たな発見を次回 からの活動に活かし、日々精進し ていきたいと思います。

芦田梢 (ForestNova)

[報告3] 初参加者の感想より

環境教育の授業を受けている友 達にこの活動を紹介されたとき、 私は即「行く!」と答えた。環 境、特に森や山に関することには 小さいころから興味があった。私 は鹿児島県出身である。鹿児島県 には世界自然遺産の島、屋久島が あり、これまでに何度か訪れたこ とがあった。古くから残る素晴ら しい自然を肌で感じる経験を多く していた。また、母の友人が鹿児 島で森を買い、自らの手で開拓 し、畑を作るという事業に少し参 加した経験もあり、森での作業に も覚えがあった。そんな私が今回 この活動に参加して感じたことを まとめてみたい。

まず午前中は雨の中、森を歩

き、様々なことを教えていただい た。急な箇所も多くあり、なかな かハードであったが、その分多く のことを吸収できたと思う。特に 水の循環の話は、自然は本当によ くできているなあと実感させられ た。小学校で緑のダムなどを習った が、今回雨の中森を歩くという経 験ができて真に理解できたように 感じる。また、針葉樹と広葉樹が うまい具合に協力して森を形成して いることや人の手で間伐や枝打ち をしてこそ美しい森が保たれるのだ という話にもとても感心した。さ らに、たくさんの虫や草木を見た り鳥の鳴き声を聞いたりしてとて もリフレッシュできた。もしまた 機会があれば、もっとじっくり森 を感じていたいし、どこか見晴ら しのいいところに行ってみたいと も思った。

昼食時にはもしもの時に備えての

応急処置の講習が行われた。救助を待っている間に少しでも多くのことを行えるようにし、かけがえのない命が救われるために全力を注がなくてはと思った。また、このことは電車や学校などでも応用できることだと思うので、常に意識して行動するようにしたい。

きものも見つけ、いろいろと想像して楽しかった。草払いはとても順調に進み、最初と比べるととてもすっきりして日の光もたくさん降り注いでいた。不思議と疲労感はあまり感じなく、達成感やすがすがしさが心に溢れていた。自然の中で作業することもとても貴重な

体験であったが、持ち場を分担したり時には協力したりと仲間と共に作業できたことも、とてもためになったと思う。

今回、この活動に参加し、本当にたくさんのことを学ぶことができ、活動自体を心から楽しむことができた。機会があればぜひまた

参加したい。そして、私たちの活動のためにご尽力いただいた皆様にこの場を借りて御礼申し上げたい。

有村 友秀(東京学芸大学 教育学部K類日本研究専攻)

[報告4] 山梨県小菅村にて 研修を行いました

7月30日に山梨県小菅村で、作業研修を行いました。JTの森を委託されている北都留森林組合から2名、NPO多摩源流こすげから2名のスタッフにご協力いただき、当日は20名以上の中学生が参加し、普段はできない作業について教えていただきました。

午前は、皆伐跡地に植えられた 広葉樹周辺の取り付けです。音楽 の保護柵の取り付けです。音楽 のの取り付けている。音段 のような作業で、音楽 してあったの経 をしていない作業をきましている。 での草刈りに汗をがまましい。 での草刈りに汗をがまましいがまり は大鎌を一人一草を以かれた。 がない柄の長いがまった。 がない柄のかった。 が、そこは若さゆえ、あっというでは若さゆえ、あっといる。

斜面もまた急な上にかなりの面積があり、プロだと2人がかりで1日かかるとお聞きした。こちらは20名いますのでことはやり切りたいと気にもサッカーやバスケのように動きにフォーメーションがあることを教わ



り、効率の良い動き、刈り残しの ない動きを教えていただきを終れるとか作業を終れるとか作業を終れるとか作業をありますが、作業後半ではありますが落ちている方で、はありますが落ちているので、うっまが変われた。そうではおいまではあります。というも、というでも、というでである。またはでいただきがあります。

北都留森林組合のみなさま、コーディネートしていただいた多摩源流こすげのみなさま、作業場所をご提供いただいたJTの森のみなさまに感謝するとともに、今回の研修は22世紀やま・もり再生ネットからの助成金を活用し、行うことができました。ありがとうございました。

宮村 連理(本会、理事)

[事務局からの お知らせ、お願い]

8月14日水曜から24日土曜まで、国連大1F地球環境パートナーシッププラザで行われたイベントの様子を写真でご紹介します。

「自然・文化がある幸せを次世 代へ」写真でご紹介。







会員コーナー

- ●会員のコーナーでは、皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。
- ●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。 領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。 また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。 振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入し て、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

世田谷郵便局 (記号) 10000-(番号) 65791651

参加にあたって:

初参加者は、9時15分までに JR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、 汚れても良い服装、着替え、滑らない靴 成るべく皮製手袋、 万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食;自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応:

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人

緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。 そして、沢山の参加で森は、良くなる。 (台風の日は勉強会開催。16年間、 一日も休まず"継続は力"。) 名称:特定非営利活動法人 緑のダム北相模

事務局: 154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9

発行人: NPO緑のダム北相模 事務局 Tel&Fax 03-3411-1636

URL: http://www.midorinodam.jp

E-mail: info●midorinodam.jp ●を@に変更して使用してください

corner●midorinodam.jp 会員コーナー専用アドレス

協働団体:セブン-イレブン記念財団、相模原市(市民協働推進課)、

東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京

支援団体: WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、

神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、

マルモ出版